

千葉県言語聴覚士会ニュース

NO. 34 2010年12月19日

目 次

会長から	1	臨床こぼれ話	12
設立10周年記念事業報告	2	匠の技	14
学術局から	3	ひとくちコラム	16
各委員会・作業部会から	7	事務局から	17
施設紹介	11	理事会等報告	18

◇ 会長から ◇

★★★ 平成22年度秋期都道府県士会協議会報告 ★★★

(会長 吉田 浩滋)

秋の都道府県士会協議会は11月6日(土)に開催され、40の県士会が参加しました(なお、翌日の理事会で滋賀県の参加が承認されるので、今後は41県士会の加入となります)。

深浦会長からは

- 1、チーム医療について
- 2、平成24年の医療保険、介護保険の同時改定について
- 3、生涯学習について
- 4、公益法人化について
- 5、その他

の5点についての現状報告がありました。

特に注目すべき話題は1と2で概要は以下のとおりです。

1、チーム医療について

現在、多職種の連携が必要とされる「チーム医療のあり方」について、看護師協会や医師会からさまざまな問題点が指摘されており、厚生労働省は「チーム医療のあり方」を検討するためのワーキンググループとして、「チーム医療協議会」を設置した。しかしこれは、認定看護師にみられるように看護師の業務を拡大する方向(医師が包括的指示を出し、詳細な点については看護師の指示の元、リハビリテーションなどが行われる。あるいは必要に応じて認定看護師が訓練を行うなど)の話し合いであり、これでは他の医療スタッフの業務範囲と役割が曖昧になると問題視されている。そのため、STを含む23職種で構成される「チーム医療方策検討ワーキンググループ」を設置し、今後のあり方について協議され



ているといった報告がなされた。

2、平成24年の医療保険、介護保険の同時改定について

医療及び介護保険の同時改定では、高齢社会のピークを迎える2025年に備えると同時に障害者や高齢者が住みなれた地域で自立した生活をおくれるようにすることを目標に、「訪問リハビリテーション」システムを確立するための準備が急がれている。その準備の1つとして、本年度よりPT、OT、ST士会主催による「訪問リハ合同研修会」が各地で開催されている（千葉県でも今年内に実施の方向にあり、PT、OT、STの合同の検討会が開かれている）。しかし現在、訪問リハビリの需要が必ずしも多くないSTの中には、「訪問リハ合同研修会」の参加に対して必ずしも積極的でない意見も少なくなく、足並みの乱れが生じてきている。しかし、「訪問リハビリテーション」への参加は、PT、OT、STが利用者の生活の場に訪問し、心身機能の維持・向上や生活活動の維持・拡大等に関する包括的機能を果たすものであり、STの業務を確立するには絶対に必要な活動であるため、「訪問リハビリテーション」システムの中にSTが参加出来るよう、各県士会の協力が求められた。

また、上記1、2のようなシステム作りや、今後厚生労働省や文部科学省などのさまざまな政策決定の場面において、データの根拠を持った意見を進言するためには、適切な情報収集が必要となることが述べられた。そしてそのためには、医療施設、介護施設等における情報収集のためのネットワークの構築が必須となるが、現在、ST業務に関する情報収集のためのネットワーク構築に参加を決めた県士会は千葉県士会を含め29県と少なく、更なる協力要請が求められた。

またその他、今回参加した各県士会の情報交換では、4つの県士会が「一般社団法人」の法人格取得の検討を開始したという報告がありました。

◇ 設立10周年記念式典及び

記念県民公開講演会が無事に終わりました！！ ◇

（ 設立10周年記念事業作業部会 村西 幸代 ）

平成22年11月7日（日）千葉市民会館小ホールにて、千葉県言語聴覚士会（以下、県士会） 設立10周年記念式典及び記念県民公開講演会が開催されました。

式典のオープニングでは、千葉大学教育学部附属特別支援学校高等部の和太鼓サークルみなさんによる、「豊年太鼓」の演奏が行われ、華やかな幕開けとなりました。式典のはじめには、吉田会長による代表者挨拶が行われ、千葉県内に言語聴覚士の養成校コースを設けるための働きかけを行っていきいたいといった展望が語られました。また、来賓祝辞では、千葉県知事の代理で、千葉県健康福祉部障害福祉課の小森武彦様、社団法人千葉県医師会会長の藤森宗徳様、千葉県教育庁教育振興部特別支援教育課の川中奥治様からお祝いのお言葉を頂戴致しました。また、一般社団法人 日本言語聴覚士協会会長の深浦順一

様、当県士会の賛助会員でもある、認定補聴器専門店リオネットセンター千葉の宮田信彦様、株式会社川本産業様からは祝電を頂いたほか、20名の職能組織や当事者団体の代表者の方々にご臨席賜り、粛々と式典が進行致しました。

式典の半ばでは、「県士会10年間の変遷報告」と題し、昨年度末に実施されました、県士会実態調査作業部会によるアンケート結果が報告されました。報告の中では、地域の受け皿不足や時間外勤務の増加、教材機器や研修費の不足が新たな問題点として挙げられ、他の県士会や他職種への情報の照会と連携の必要性が強調されました。

式典のクライマックスでは、平成16年に脳梗塞により失語症、右不全麻痺となったプロのジャズサックス奏者である藤原幹典氏とその仲間によるジャズのミニコンサートが行われました。演奏会ではアンコールが出るなど、たいへんな盛り上がりとなりました。

引き続き行われた、記念県民公開講演会では、国立国際医療研究センター国府台病院や失語症デイサービス「ミカタ」などで、言語聴覚士としてご活躍される、横張琴子先生を講師にお招きして、「さまざまな脳の障害と、その回復への道のり～失語症・失行・失認を中心に～」をテーマとしたご講義を賜りました。ご講義の中では、一般的にはわかり難い「脳血管障害に関わる医学的基礎知識」から「言語障害の基礎知識」を養成校の学生さんやご家族、当事者の方々にも興味深くご理解頂けるよう、クイズ形式にまとめたお話を頂きました。また、重度の失語症の方々のグループ訓練をビデオでご紹介頂き、自宅では笑ったことも、声を出したこともほとんどなかった方々が、仲間と過ごすことにより笑顔を取り戻されていく様子をご紹介されました。そして最後には、末期のがんになりながらも、「生命の灯ふたたび」の作品展に出展するための絵を描き続け、最後まで、ご自身の命を輝かすことの出来た失語症者の方をご紹介頂き、「医学的に命を延ばすのではなく、医学的にのばされた命を、本当に生きて良かったと、家族、本人が思える命にすることがリハビリテーションの役目である」ことが語られ、「出来ない事に目を向けるのではなく、何ができるかを見つけ、それを伸ばすことを考えて欲しい」と締めくくられました。その後に行われたアンケートの結果では、参加された大多数の方から、期待以上・期待通り・講演内容に満足といったお答えを頂き、「言語聴覚士として、患者や家族との関わり方を深く考えさせられた」、「勇気と希望が持て、心打たれた」といった感想をお寄せ頂きました。今回参加人数は120名とたいへん多い結果となりましたが、1点残念だったことは、当県士会会員の参加率が低かったことです。千葉県言語聴覚士会は私たちの働く環境を守り、ひいては、私たちと関わる多くの障害者の方々に安心して質の高いサービス提供できる場を守る職能組織です。この組織を育てるためには、会員一人、一人の協力が必要となります。今後ぜひ、県士会活動にご協力頂けるようよろしくお願い致します。



◇ 学術局から ◇

学術局 木下垂紀 平澤美枝子

1. 平成22年度第3回研修会のお知らせ

摂食嚥下をテーマに症例検討会を行います。助言者には、千葉県で数少ない「(摂食・嚥下領域)認定言語聴覚士」の根本達也先生をお招きします。また、今春から言語聴覚士にも喀痰等の吸引の実施が認められ、それぞれの所属する医療機関等において必要な教育・研修等を受け実施することや、医師の指示の下、他職種との適切な連携を図ることが求められています。皆様の職場での実態を報告し合い、よりよい方法を模索するための情報交換を考えております。

会員の皆様はもちろん、会員外の方へもお誘いあわせの上、ご参加ください。

1. 日時：平成23年1月16日(日) 13時00分～16時40分

2. 会場：東京女子医科大学八千代医療センター 外来棟4階 大会議室
東葉高速鉄道「八千代中央駅」下車徒歩9分(詳しくはHPをご覧ください)
駐車場の割引はありません 公共交通機関でお越しください

3. 内容：

13時00分～15時40分 症例検討会

① 「訪問ST訓練開始後長期に渡って機能回復し、経口摂取可能となった症例」

発表者：らいおんクリニック 言語聴覚士 山崎 勇太 先生

② 「認知症を呈した胃癌術後症例の栄養手段の帰結(仮)

～開腹胃ろう造設術施行例～

発表者：千葉徳洲会病院 言語聴覚士 深田 拓也 先生

助言者：安房地域医療センター 言語聴覚士 根本 達也 先生

15時50分～16時40分 情報交換会

* 申し込み方法：詳しくは同封の申込書をご覧ください。

2. 第2回研修会報告

平成22年9月12日(日)に千葉市療育センターで第2回研修会を開催しました。当会高次脳機能障害委員会、聴覚障害委員会と学術局が連携し実施しました。

高次脳機能障害委員会は、「認知機能のみかた」をテーマにした講演と、委員のお二人による症例報告及びシンポジウムという構成で行いました。シンポジウムでは、参加者の皆様と臨床における疑問点や問題点について、講演を踏まえた上で、活発に意見交換が行われました。

聴覚障害委員会は昨年度の初級編に引き続き、「聴覚障害を知る 中級編—検査結果の見方と補聴器の

管理、装用指導について」を3名の先生にご講演いただきました。参加者は68名でした。研修会の概要と、アンケート結果の一部を紹介します。

研修会の概要

① テーマ：「認知ドリルの有効な使い方について」

講師：当県士会高次脳機能障害委員会

はじめに認知機能の総論についてご講演をいただきました。認知機能(高次脳機能)は一様なものではなく、低次なものから高次なものまでが含まれ、認知機能の階層性を理解することで治療の方略への示唆が得られることをわかりやすい図で解説していただきました。また注意という機能は、全般的(汎性)注意と方向性注意に分けられ、さらに全般的注意は、覚度、持続性、選択機能、制御機能などの側面から構成されること、よってそれぞれ介入したい諸側面にあわせてドリルを設定することが重要であることのお話がありました。次に、認知ドリルを活用した2症例の発表がありました。1症例目は覚醒を促すとともに覚醒時間の延長を促進する目的で、さまざまな認知課題の適切な活用が、臨床上有用と考えられたことが示されました。2症例目は認知ドリルを用いたリハビリテーションを実施した結果、訓練中の無視側への気づきが向上し、検査結果やADLにおいて改善が認められたこと、今後さらなるADL改善を図るには認知ドリルの工夫や机上課題以外の課題等も行い、日常汎化を図ることが重要であることが示されました。最後のシンポジウムでは、フロアから①認知ドリルを用いた訓練と、復職のタイミングについての質問、②半側空間無視(USN)の治療についての質問、③病識を高める方法についての質問などが挙げられました。①については、種々の認知ドリルを行い、CATの下位検査であるPASATを経時的に実施し、同年代の平均値と比較することが、復職を進める上で1つの指標となること、②については、方向性の注意は比較的低い階層の機能であるため、USN自体の改善は実は難しいが、全般的な注意の改善が、結果としてUSNの改善に繋がるという視点でアプローチすることが重要だと思われること、③については、検査データ等について自己評価と他者評価を比較してもらうことや、あえて失敗したことから気づいてもらう等の答えをいただきました。

今後、委員会では、当研修会でみなさまからお寄せ頂いたご意見を参考に各種認知ドリルのリストを作成し、年度末にHP上で公開する予定です。

② 演題名：「聴覚障害を知る 中級編 ―検査結果の見方と補聴器の管理、装用指導について―」

講師：当県士会聴覚障害委員会

はじめに小児に関する難聴の発見から、補聴器装用、療育までをご講演いただきました。

現在、新生児聴覚スクリーニング(以下新スク)でより十分な対応が可能な専門施設へ紹介となり、そこで精密検査を受けて、難聴の診断に至るケースの多いことが示唆されました。また、新スクをパスしてもその後難聴になるケースもあるので注意が必要なこともお教えいただきました。難聴を見逃さないようにするためには、言葉の遅れや発音不明瞭を主訴に来院したケースの聞こえのチェックを行うことが重要とのことでした。難聴と診断され、初めて補聴器を装用する難聴児に対しては、補聴器の装用指導が必要なこと、難聴の子どもたちが人との関わりを楽しみ、コミュニケーションの中から言葉を獲得していけるよう療育を行っていくこと、乳幼児期は特に保護者への支援が重要であることを、実際

に指導で使用している教材を用いてご教示いただきました。

次に検査結果の見方では、標準聴力検査、インピーダンスオージオメトリー、語音聴力検査、耳音響放射検査、聴性脳幹反応検査についての検査結果の見方のポイントと幼児聴力検査の対象年齢、方法についてご説明いただきました。1つの検査結果で判断せずに、複数の検査で総合的に評価をしていくことが大切であるとのお話がありました。本人（児）や家族・親の訴え、本人の行動や児の発達などと、検査結果が矛盾することがあるため、医療機関へ情報提供し、連携をとっていくことが大切だとのお話がありました。

そして最後に補聴器のメンテナンスについては、補聴器、イヤモールドの清掃方法のポイントとして、補聴器は乾燥剤や乾燥機を使用して乾燥させることが大切とのことでした。補聴器に水分がかかる、本体が欠ける、ヒビが入るなどした場合は、補聴器専門店で依頼し、修理が必要か見てもらうことが大切であるとのお話がありました。電池の種類、消費期限、電池切れについても詳しくご説明いただきました。買い替えの時期としては、故障して修理が高額になることが判明したとき、故障したが古くて修理部品がないとき、調整不可能なほど聴力が変動したとき、ライフスタイルに合わなくなったとき、であるとのお話がありました。

今後も聴覚障害に関する簡単な知識やポイントなどを当会が発行する年3回のニュースで連載いただきます。

アンケート結果

●研修会に参加して

とてもよかった 40名、普通 8名、期待していた内容と異なった 3名
(具体的内容)

- ・認知機能に対してあらためて考えることができました。今日、教えていただいたことを臨床でも生かしていきたいと思います。
 - ・PASATで成績を確認するのが良いということを初めて知りました。今後も障害に合わせてドリルを使用していきます。
 - ・普段、聴力検査をとることがないので、他機関でとった結果を見るだけですが、結果の読み方が十分にわからなかったので勉強になりました。
- ### ●今後の研修会やこの会の活動について、ご意見等がありましたらお書きください。
- ・難聴のお子さんの言語指導（構音指導の仕方など）についてお話を伺いたいです。
 - ・自分の知っている分野だけでなく、いろいろなことを知っておくのはSTとしての質の維持をはかるためにも必要だと思いますので、このような研修会を今後も継続していただけるとありがたいです。
 - ・高次脳についてもっと研修会をしてほしいです。

事務局より＜研修会を終えて＞

昨年度に引き続き、委員会とタイアップしたことでより専門的な研修会が開催できたと自負しております。今後も会員の皆様からのご要望にお応えできる研修会の在り方を模索して参ります。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。皆様の臨床の一助になれますようお願いしております。尚、今

回は、症例提示があったため、ビデオ撮影をしておりません。ご了承ください。

〔研修会の症例発表者募集〕

次年度の研修会での症例発表者を募集します。日頃の臨床で悩んでいる症例などありましたら、ぜひ発表してください。皆様の積極的な提案をお待ちしています。申し込みや問い合わせはホームページでお知らせください。

3. 「地域の勉強会」での症例検討会に参加しませんか？

会員の皆様のご協力により、各地域で勉強会が開催されています。ホームページの「小児多職種合同勉強会」、「地域勉強会」をご参照の上ご参加ください。

小児の分野では、立場が違ふと共通の子どもの成長に携わっていても、なかなかお互いにコミュニケーションがとれないという声がたくさん寄せられていました。そこで「小児多職種合同勉強会」を県内5地域に発足させ、さらに発展させようとしています。ご活用ください

◇ 各委員会・作業部会から ◇

◎◎◎ リハビリテーション公開講座作業部会 ◎◎◎

台風の中、無事に第4回 リハビリテーション公開講座が開催されました！

昨年度に引き続き、今年度も10月30日（土）に千葉市美浜文化ホール・メインホールにおいて、一般社団法人千葉県理学療法士会・一般社団法人千葉県作業療法士会・千葉県言語聴覚士会・千葉県リハ医学懇話会主催の「第4回リハビリテーション公開講座」が開催されました。当日は、台風14号が開催に合わせて接近するという悪天候でしたが、その状況にも関わらず、一般の県民の方々約80名の参加があり、講演、個別相談、県士会紹介等を行いました。



今回は「予防」をテーマに、千葉県救急医療センター神経系治療科部長の古口徳雄先生による「脳卒中の予防」、千葉県千葉リハビリテーションセンター長の吉永勝訓先生による「運動器疾患の予防」の基調講演が行われ、その後、各県士会代表者による専門的支援の方法が報告されました。当県士会からは、株式会社シダーの南木香名芽氏が、「嚥下・口腔機能の低下を防ぐために」と題し、嚥下障害の特徴や対応について、丁寧かつ具体的な対応を大変分かり易く説明下さいました。参加者からのアンケートでは「スライドに絵や図解が多く、話しもわかりやすかった。」「今後も継続して欲しい。」などのご意見を頂きました。また、個別相談も多くの方が活用され、利用された方からは「相談に乗ってくれた方が丁寧に答えてくれたので、本当にありがたかった。」との感想を頂きました。

千葉県におけるリハビリテーションの発展のためにも大変意義のある企画だと思います。ご協力頂いた会員の皆様に感謝いたします。

（斉藤 公人、神作 暁美、羽場 依子）

◎◎◎ 介護保険委員会 ◎◎◎

平成22年第1回介護保険委員会勉強会開催報告

平成22年10月17日（日）千葉大学医学部附属病院にて介護保険委員会主催の勉強会が開催されました。今回は、介護保険下でご活躍の歯科衛生士のお2人を講師にお迎えして、嚥下障害における他職種との連携をテーマに、歯科衛生士の方々の活動紹介、症例を基にしたディスカッション、意見交換などを行いました。

千葉県歯科衛生士会所属の坂巻真有美先生からは『介護保険における歯科衛生士の取り組み』と題してデイサービスでの口腔機能向上プログラムや地域支援事業における介護予防としてのプログラムをより具体的にお話しいただき、また、東京都歯科衛生士会所属の丸山みどり先生からは『介護福祉施設における口腔機能維持管理加算の導入と効果』と題して施設において口腔ケアを効果的に導入するプロセスやその効果をご報告いただきました。

また、症例を基にしたディスカッションでは県士会会員から提示された『介護老人保健施設で経口移行計画実施中の症例』および『お楽しみレベルの経口摂取を目指してアプローチしている症例』に対し、言語聴覚士からの視点、歯科衛生士からの視点、共通するアプローチ、それぞれの特色を生かした専門性に基づくアプローチなどの発表があり、お互いの職種についての理解をより深めることができました。

老人から小児、要介護者から一般老人まで、ご経験が豊かな講師のお2人からは日々の臨床に役立つヒントを多く頂くことができ、参加者アンケートには『より具体的なことを学ぶことができ言語聴覚士の口腔ケアでは得られない知識を得ることができた』『言語聴覚士の分野では聞くことができない専門的な話を聞くことができ今後臨床に活用していきたいと思った』『他職種と連携することの重要性を改めて感じた』などの感想が寄せられました。

介護保険下で活動する多くの言語聴覚士が嚥下訓練における口腔ケアは重要だと考えていることはこれまでの勉強会や事例報告などで多く聞かれています。しかし、われわれ言語聴覚士の口腔ケアや歯科領域に関する知識は果たして本当に充分といえるのでしょうか。今回、歯科衛生士の方々とご一緒する機会を得て、改めて口腔ケアの重要性を感じると共に専門職のそれぞれの特色を尊重して連携をとることの大切さを改めて知ることができたように思います。

介護保険委員会では今後も『明日からすぐに役立つ、何かを得られる勉強会』を開催していきたいと考えております。皆様もぜひご参加ください。

（勝又 綾子）



◎◎◎ 小児言語障害委員会 ◎◎◎

小児言語障害委員会は10月17日、「コミュニケーション面の評価・働きかけどうしてますか？」をテーマに八千代市ことばと発達の相談室で情報交換会を開催しました。会員だけでなく非会員にも門戸を開き、25年以上の経験をもつ大ベテランから2年目の若手、さらに専門学校在学中の学生も加わり、参加人数は17人になりました。終始リラックスした雰囲気職場の近況などについて話し合うことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

当日は、会場となった八千代市ことばと発達の相談室の施設見学、同相談室の近況報告の後、旭中央病院の宇井円先生、のぞみ療育グループの木下垂紀先生がテーマに即したプレゼンテーションを行いました。コーヒープレイクの後、君津中央病院の金子義信先生による近況報告があり、続いて参加者全員による自己紹介、情報交換のためのフリーディスカッションを行いました。

八千代市ことばと発達の相談室の施設見学は本委員会的那須委員長らの案内もとで行われました。同相談室は子育て支援センターとの併設で、病院関係者にとっては職場環境が大きく異なり、子供にとって親しみやすい環境となっていることに関心が寄せられていました。

続いて行われたテーマに即したプレゼンテーションでは、旭中央病院の宇井先生から「対人コミュニケーション評価」のテーマで、新しい評価手法となる「対人・コミュニケーション関係観察フォーマット」の試案を紹介しました。今年6月の日本言語聴覚士学会でポスター発表を行ったホットな話題でもあり、興味深い発表になりました。臨床場面で客観的かつ的確に実施することができる評価方法として、参加者の関心を集めました。

また、のぞみ療育グループの木下先生は「コミュニケーションの評価・指導～NCプログラム、認知・言語・運動（CLM）プログラムの紹介～」のテーマで、発達障害児を対象とする独自の包括的な認知・言語促進プログラムについて発表しました。個別指導だけでなく、グループ指導にも役立つ情報を教えていただきました。

君津中央病院の金子先生は「病院と教育機関との連携」をテーマに話題提供し、学校を訪問した際、その場で児童のコミュニケーション能力について評価が求められることのむずかしさなどについて指摘がありました。

参加者全員による自己紹介では、「他職種との連携のむずかしさ」「コミュニケーション障害のとらえ方の難しさ」「集団場面での的確な評価の必要性」などが話題に上り、それぞれの職場が抱える悩みなどについても情報交換をしました。STに対応が求められる検討課題は幅広く、時間が足りないこともあって議論を深めるまでは至りませんでしたが、今後の課題を見出すことにつながりました。

研修会などとは異なり、フリーディスカッションを通じて個人的に抱える問題点なども紹介され、今後に生かせる機会になったと参加者からも好評を得たようです。

(那須 道子)

◎◎◎ 組織検討委員会 ◎◎◎

■一般社団法人をめざす動き、広がる

去る2008年12月、公益法人制度改革が実施され、余剰金の分配を目的としない（営利性を有しない）団体について、その行う事業の公益性の有無にかかわらず、設立の登記をすることにより法人格を取得することができる一般社団法人および一般財団法人の制度が創設されました。これにより、さまざまな団体が必要な定款を定めるなどの準備を行い、登記をすることでいまままでと比べ容易に法人格を得ることが可能となりました。事実、私たち言語聴覚士の全国組織である日本言語聴覚士協会も、平成21年9月13日より「一般社団法人 日本言語聴覚士協会」として新たに生まれ変わっています。また、千葉県内においては、千葉県理学療法士会と千葉県作業療法士会も平成21年度に一般社団法人を取得し活動されています。このように、日本全国、いままで活動してきた様々な職能団体が法改正後次々と法人格を取得、あるいは取得のための準備が進められています。

私たち千葉県言語聴覚士会も、この一般社団法人を取得すべく準備を進めていますが、ここで何故法人化を行うのか、メリットを簡単にまとめてみたいと思います。

■法人格取得のメリット

まず第1に、社会的な信用度のアップが挙げられます。法人とは、その団体活動が国から正式な活動として認められるものですから、行政等へ意見・要望を挙げる際には影響力が違ってきます。また、銀行口座を法人名で開設できたり、事務所の契約等を結んだり、さまざまな活動を行う際に「信用」という面から大きな差として生じてきます。つまり法人化することは、私たちが今後、様々な活動を県内で実施していくうえで、よりスムーズな運営が出来ることになります。

第2点としては、税制上のメリットが上げられます。事業収入については会社と同様、基本的には課税対象になりますが、非営利を徹底している場合や、公益的事業が中心で一定以上の非営利性を確保していることが明らかな場合には、収益事業以外の収入には課税されないことになります。つまり、私たち千葉県言語聴覚士会の活動の中心は、コミュニケーション障害者へのサービスの提供やコミュニケーション障害やその他、私たちが対象としている疾患・障害についての啓発活動ですので、非営利で公益性の大きい活動ということになり、上記のメリットが受けられます。

その他、事務手続きに関しては、現在まで総会等での事業報告や会計報告を行ってきたことがほぼそのまま適用でき、皆様の業務的な負担が増えることもありません。

■一般社団法人化で信用力アップを図ろう

一般法人を取得することで、個々の会員の皆様に直接的なメリット・デメリットが生じるわけではありませんが、私たち千葉県言語聴覚士会がより社会からの信用を得て、よりよい活動を今後行っていくためにも、皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

(平山 淳一)

施設紹介

筑波大学附属聴覚特別支援学校・・・・・・・・・・ST 大竹 一成

筑波大学附属聴覚特別支援学校（筑波大学附属聾学校：平成19年改称）は、日本では唯一の大学附属の聴覚特別支援学校（聾学校）です。また、今年で創立135年となる長い歴史を刻んできた学校でもあります。学校の組織としては、幼稚部から小学部、中学部、高等部、専攻科まであり、平成22年4月現在で、幼児・児童・生徒数255名、常勤教職員104名（ST7名）の大規模校です。

幼稚部では、安定した親子関係を育てながら、聴覚活用を柱に、心身の健康や人間関係、基本的な生活習慣等、幼児の全体的総合発達を図りながら、言語獲得の素地を作っていくという聴覚障害教育の最も基本となる指導が行われています。小学部からは言語発達を促しながら学習指導要領に基づいた教科指導が入ってきて中学部、高等部へとつながっていきます。高等部、専攻科では全国各地からも聴覚障害のある生徒が入学し、寄宿舎で生活しながら学業に励んでいます。

病院と違ってST業務というものはありませんが、他の教職員とともに、日常生活の中で、聴覚の活用を促したり、発音指導、また、言語力の向上、さらにコミュニケーション能力の向上を図る指導等を様々な教育場面でを行っています。また、学校の組織の中に聴覚障害相談支援部が設けられており、大きな業務としては0歳児から2歳児の乳幼児教育相談が行われています。その他、聴力検査や補聴器装用に関連した補聴相談等は、補聴相談室が設けられており、随時相談に応じています。近年、人工内耳装用児・者が増加の傾向にあり、幼児・児童・生徒の補聴にも柔軟な対応が求められています。各学部の入学相談・教育相談も随時行っています。〒274-8560 市川市国府台2-2-1 TEL: 047-371-4135（代）

千葉労災病院 リハビリテーション科 ST室・・・・・・・・・・ST 安田 清

当院の言語療法は成人の言語障害を対象に1983年に開始しました。6年前より全国的にもまれなりハビリ科に物忘れ外来を開設し、生活指導や生活支援を積極的に行っています。具体的には各種メモリーエイドの開発と貸与、ICレコーダーなどの電子機器やビデオの活用などによる支援などです。2009年12月には院内に認知症支援チーム(DST)も発足しました。

現在、京都工芸繊維、立命館、成蹊、佐賀などの工学系の大学や企業と、主に認知症支援の共同研究をしています。例えばテレビ電話による遠隔支援、トイレ手順誘導、音声認識による日記作成、エージェント（仮想人間）との会話などです。千葉工業大学とは構音障害向けエイドの開発も始めました。

当院の臨床実践から、吸引歯ブラシ、照明開口器、記憶サポート帳、語りかけビデオ3種、ビデオ『家庭でできる言語訓練』、同『私たちの職場復帰』などが商品化されました。

その他、市原市認知症介護者会、市原市失語症友の会、物忘れのある方の懇談会（主に軽度認知障害・MCIの方の会）、青葉の会（障がいがある方の絵画書道教室、作品は当院ギャラリー明日への窓に展示）、脳のリハビリと介護を気軽に語る会（主にST主体の勉強会）などへの支援も行っています。

〒290-0003 市原市辰巳台東2-16 TEL: 0436-74-1111（代）

臨床こぼれ話

=== それぞれの場面の中で ===

千葉市大宮学園ひまわりルーム

田辺 佳子

千葉市療育センターやまびこルームに就職したのは今から二十数年前です。一年間のST養成課程を終了したのみで、何も分からないまま難聴幼児通園施設での指導や、そのころは兼務していた療育相談所での検査・訓練などの臨床が始まり、ハラハラドキドキの連続でした。月日が経ち組織も変わり、STにも異動という事態が生じ、やまびこルームから療育相談所へ、再びやまびこルームへ、そして今回初めて知的障害児通園施設ひまわりルームへ異動となりました。

やまびこルームでの経験が一番長い私です。ふとした折に、担当し卒園して行ったお子さんたちは（もう成人している方もいますが）今どうしているかなあと、お一人お一人の顔が浮かびます。「自動車会社に就職が決まりました」「動物の専門学校に行くことにしました」「臨床検査技師を目指します」などのうれしい知らせを聞く一方で、「学校へ行けなくなって・・・」など心配な便りも耳にすることもあります。以前は年賀状などで卒園後の様子なども教えていただけたのですが、個人的なやりとりが厳しくなったころから、そのようなチャンスも限られるようになりました。

療育相談所へはたくさんの方が、さまざまな心配や不安を抱え相談に見えます。毎日毎日、検査や評価、訓練やグループ指導という臨床の中で、通園施設とは異なる多くのケースの経験をさせていただきました。

昨年度からはひまわりルームで管理業務も兼任することになりました。ひまわりルームの療育の中心的担い手は保育士です。その保育士を統括するルーム長も保育士が長い間努めてきました。STにそれが務まるのでしょうか。食事、排せつ、保健、通園バス、問題行動etc. 言語・コミュニケーション以外の相談を保護者から保育士から受ける日々、戸惑いながらの毎日です。

先日、久しぶりにやまびこルームの運動会にお邪魔しました。やまびこルームで個別指導やグループ指導を担当していた現在小学校2年生の方々に会うことができ、懐かしさで胸が一杯になりました。私が異動した年に卒園した方々、私自身の思いにも深いものがあります。その中にとっても心配なA君がいました。運動会で久しぶりにお母様とお話しさせていただき、「お勉強は大変だけれど、楽しく学校へ行っています。」「学校の発表会で、去年は無謀にも、もっさんにチャレンジし猛特訓、今年は劇を頑張っています。」など、たくさんお話を伺うことができました。今はまだ小学2年生です。これからいろいろなことがあると思います。でも、あのご家族だったら、明るく未来を築いていかれると信じています。直接的にはもう何もできないけれど、いつも、いつもエールを送っています。

最近の仕事の関係上、特別支援学校の運動会や授業を見させていただく機会が多くあります。特別支援学校の運動会では、療育相談所の時に聴力検査のため何度もお会いしていた運動面もとてもゆっくり

だったお子さんが、しっかり補聴器を付けて競技に参加していたり、やまびこルームで一緒にあったダウン症で難聴のお子さんが元気に先頭切って走っていました。中等部・高等部の授業参観では、療育相談所のグループ指導などで関わらせていただいたお子さんたちが立派に成長し、高等部のシイタケ栽培の作業に生き生きと取り組んでいたり、陶芸班で製作品の説明をしていたり、機織り班では驚くほど繊細な色使いの織物を黙々とこなしていました。感動するとともに、一人ひとりのお子さんの先の見通しを持つ力がなかった自分を恥ずかしく思います。

さて、ひまわりルームでのSTとしての臨床についても、新たなる勉強の始まり、課題がたくさんあります。ST室での検査や個別指導などは、STとしてケースに向き合う真剣勝負の時間です。そして、もうひとつ、自覚して大切にしたいと思っていることは、ひまわりルームで生活経験を積むあらゆる療育場面、クラスの中、トイレの中、給食、お集まり、行き帰りのお支度、行事などで、それぞれのお子さんが、その瞬間瞬間に何を見て、何を感じて、何を表現しようとしているのかに常に敏感でいたい、お子さん一人ひとりにとってよりよいコミュニケーションパートナーでありたい、ということです。クラスの担任をしているわけではありません。十分な時間もなかなかとれませんが、お子さんの一瞬一瞬を大切にに関わりたいと、STだからこそ思います。

最近、ひまわりルームのあるお母様がしみじみとお話ししてくださいました。「やまびこにいた時が正直一番きつかったです。難聴だけじゃないのではと思いながらも、不安だらけで、訳が分からなくて……」その方は、私が以前やまびこルームに在職していた時にも存じ上げていた方です。知的障害を伴う広汎性発達障害があり、こだわりや自傷などの問題行動もまだまだあります。やまびこルームへも一生懸命通われましたが、先が見えないきつい状況の中で、頑張られていたことを思うと胸が痛くなります。保護者の方々のいろいろな思いや大変さを深く受け止め、具体的な支援をさせていただかなければと再認識しました。

それぞれの場面でSTを経験させていただく中で、過去から現在そして未来へ、1つの施設から別の施設と、点と点がつながったり、縦線と横線が交わる今日この頃です。

幼児期は、お子さんにとって、保護者の方にとって、ことばやコミュニケーションへのご心配やご不安はとても大きな位置を占めています。一方で、一人のお子さんの様々なご心配の中で、そして、長い人生の中で、STが関わらせていただくのは、ほんの一部であり、ほんの一瞬です。お一人お一人の重みを感じながら、誠実に謙虚にこの仕事を続けていかなければと思います。



匠の技

スクールカウンセリング Well-Being 小林晶子

【はじめに】

前号に引き続きまして、スクールカウンセリング Well-Being の小林晶子です。今回は、『聴く』ことと、『アサーション』についてお話ししましたが、今回はもう少し具体的に「どうやって？」の部分に触れてみたいと思います。編集部の方々から現場で直面するトラブルやお悩みをたくさんお伺いできたので、分かりやすく Q&A 形式にしてみました。皆さんが日々現場で仕事を実践していくうえで、役立つ内容がひとつでもあれば幸いです。

どうやって『聴く』の？

Q.患者さんやご家族の話を聴くとき、ただひたすら相づちを打って聴いていればいいの？

どんなことに注意して聴けばいいの？“何か言わなきゃいけないんじゃないか”とドキドキしてしまいます。



A.「何か言わなきゃいけないんじゃないか」と“ドキドキする”時点で、相手の話は聴けていないことになります。自分の内面とお喋りしてしまっているわけですから。焦らなくて大丈夫です。患者さんやご家族のお話を、“その方にとっての真実”というふうにとらえて、自分側の価値観や考えは一時横に置いて、『そうなんですね』という気持ちで相づちを打ってください。そして、出来事や事柄よりも、“つらい”“悲しい”“寂しい”といった気持ち（＝感情）に寄り添い、『それはつらいですね。』『そうですか。寂しかったんですね。』のように、感情に共感して言葉を返すと良いと思います。「私はあなたの話をちゃんと（心で）聴いていますよ」という姿勢（構え）が、患者さんやご家族を安心させるんです。もちろん、“嬉しい”“楽しい”のような明るい感情にも積極的に言葉を返してくださいね。

Q.ご家族のお話を聴いていると、「あれもこれも」と次々に内容が変わってしまい、何に困っているのか、何が問題なのか分からなくなってしまうことがあります。

A.お話を聴く時間に“制限”をつけてみてはいかがでしょうか。『今日は 15 分、ご家庭でのお困りごとについてお話ししましょう。』というように、話の前に時間を決めるんです。そうすることで、ご家族も「15 分間の中でどうしても話しておきたいこと」を自然と考えて、ある程度整理できます。「いつまでも



話せる」と思うと、話さなくてもいいことや、次々頭に浮かんできたことを延々と喋ってしまったり、話している本人が何に困っているのか分からなくなってしまう、ということも起こりやすくなります。時間に制限をつけることは、相談する側にとっても実は楽で、しかも話す内容に優先順位をつける作業自体が、問題を明らかにしてしまう、というプラス効果もあって得なんです。時間がきたら、『じゃあ、そろそろお約束の時間なので』と話を収めて、専門家としてすぐに解決できるような情報や知識があればその場で提供・助言して、それ以外のメンタルな部分に対しては、気持ちに寄り添い返したうえで、労いや励ましの言葉を

かけて、『また次回、時間をとってお話ししましょうね』と、関係が“途切れない”、“サポートされている”という安心感を、ご家族に与えてあげてください。

Q.訓練中、患者さんにはなるべくいろんなことをたくさん話してほしいのに、会話が続き沈黙してしまいます。

A.『お子さんはいらっしゃるんですか?』『今日は寒いですね』のように、『はい』か『いいえ』で答えられる質問のことを“クローズド・クエスチョン（閉じられた質問）”と言います。『お仕事は何をされていたんですか?』『土木関係です。』のように、一言で返せるような質問もこれに含まれますね。これに対して、『昨日の自由時間は何をされていたんですか?』『先週の訓練から新しいことを始めましたが、やってみていかがでしたか?』のように、相手が自由に返す言葉を選べる質問のことを“オープン・クエスチョン（開かれた質問）”と言います。

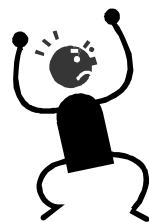


話す訓練なら、やっぱりセラピストはオープン・クエスチョンを意識的に用いるのがいいですね。その方が、質問の後の話が広がることも期待できます。（ここで補足ですが、言語聴覚士の臨床場面、特に失語症の患者さんへの訓練では、まず“クローズド・クエスチョン”を用いて、患者さんの伝えようとしていることの確認作業をすることが勧められている、とのことですので、患者さんの病気・障害の種類や程度によって、この両者を使い分ける必要もあると思います。）

ただ、こうした質問を用いても、返事がなかったり、沈黙が多くなってしまう患者さんも中にはいると思います。そういう場合には、セラピスト側から『実はね、昨日こんなことがあったんですよ…』というふうに、自己開示してみるのもひとつです。「セラピストは自分の個人的な話はするべきではない」という考えもあるかも知れませんが、私はセラピストと患者の間の信頼関係は、セラピストの自己開示なしにはあり得ないんじゃないかな、と感じています。目の前にいるセラピストが自分の話をまったくせず、その日の訓練を淡々とこなしているだけだとしたら、患者さんは多くを語ろうと思うのでしょうか?セラピストも人間で、セラピーは心のかよったものだ、と患者さんに伝えることで、コミュニケーションも広がり、訓練の効果もあがるのではないかと思います。もちろん、セラピストの自己開示は節度を持って、自分にとって深刻すぎる内容を喋りすぎないように注意してくださいね。

Q.患者さんやご家族からネガティブでマイナスな感情をぶつけられたとき、どう言葉を返したらいいのかわかりません。何も言わず傍にいていいのでしょうか?

A.特に、不慮の事故や病気の後遺症などで障害を負ってしまった患者さんは、以前のようにうまく喋れないことや、訓練がうまくいかないこと、手術や医療の効果が思わしくないことに対して、強い不満や憤りを感じるものだと思います。その感情のはけ口として、身近なセラピストに言葉や思いをぶつけることも、多々あるでしょう。確かに、激しい感情をぶつけられると、どう対応すればいいのかわかってしまいますよね。でも、そこで感じてみてください。患者さんやご家族は、『分かりますよ』という言葉が欲しいのでしょうか?セラピストに何を期待して激しい感情をぶつけているのでしょうか?



患者さんやご家族は、自分の中にある葛藤や混乱、焦りや不安な感情を抱えきれず、誰かに共有してもらいたいと思っているのではないのでしょうか。決してセラピストを責めたり傷つけようとする意図

があるわけではなくて、逃げずに一緒に居てくれること、ちゃんと話を聴いて『うん、うん。』とうなずいてくれること、それだけで、患者さんやご家族の気持ちは楽になって、落ち着いていくんだと思います。

私たちは専門家ですが、患者さん（クライアント）を“治してあげる”わけではありません。セラピストの役割は、患者さんの生きる力・立ち直る力を、ただただ信じることです。“治したい（良くなりたい）”と思うのも、そして“治す”のも、患者さん自身です。その回復（訓練）の過程で変化していく感情に寄り添い、専門家としての知識や技術を活用してサポートすること、『一緒に乗り越えていきましょうね』という姿勢が、セラピストには必要だと私は思います。



スクールカウンセリング Well-Being

Tel/Fax 0439-29-7188

E-Mail well_being72@yahoo.co.jp

三三三 きこえに関するひとくちコラム 三三三

・・・聴覚障害委員会・・・

補聴器に関する助成について

第3回は、高齢者の補聴器に関する助成についてです。

身体障害者手帳（聴覚障害 2～4、6 級）を持っていれば、補聴器購入の際給付が受けられます。手帳がないと全額自費での購入となります。しかし、市町村によっては、高齢者に対する福祉事業として、補聴器の貸与や、購入の際の金額の一部給付などの助成をしてくれる場合があります。以下の市では、補聴器に関する助成が受けられます。

○千葉市○ ○市川市○ ○船橋市○ ○木更津市○ ○浦安市○

但し、市によって助成の内容や対象者の条件などが異なりますので、利用する際はHPや各市の高齢者福祉などの担当課にて確認が必要です。上記以外の市町村でも何らかの事業がある可能性もあります。その点については直接市町村にお問い合わせください。



◇ 事務局から ◇

会員・会友の方へお知らせ

年会費自動引落制度について

財務部より



今年度、当会では、事務処理の効率化ならびに、会員の皆様の利便性の向上を目的として、年会費自動引落制度の導入に向けて、手続きを進めて参りました。現在、平成23年度年会費分からの制度導入を予定しております。1度手続きを行なって頂きますと、以後は、未納や二重納入などのご心配がなくなります。強制ではございませんが、是非とも年会費自動引落制度をご利用いただきますようお願い申し上げます。

なお、詳細は近日中にご送付させていただきます。

1. 入会のお誘い

当会に入会されていない方は、ぜひご入会くださるようお願い申し上げます。入会ご希望の方は、ホームページにても入会方法をご案内申し上げますのでご覧ください。また、お近くに未入会の言語聴覚士の方がいらしたら、入会をお勧めくださいますようお願い申し上げます。

2. 住所・勤務先変更届けについてのお願い

住所や勤務先など、入会時にされた登録内容に変更があるときは、お手数ですがなるべく速やかに、事務局まで郵便またはFAXにてご報告くださいますようお願いいたします。変更届は会のホームページよりダウンロードすることもできます。会よりの郵便物がお手元に届くのが遅れるなど不都合がございますので、ご協力お願いいたします。

3. リーフレットの配布

千葉県言語聴覚士会のリーフレットを所属施設に置きたい、研修会などで配布したい等のご希望がありましたら、必要部数と連絡先を明記し、事務局までお申し込みください。追ってご連絡いたします。また県士会ホームページにも掲載されていますので、ご覧ください。

4. 新入会員のお知らせ（敬称略）

会員数：正会員 324 名・会友 23 名・賛助会員：5 団体

（平成22年11月28日 理事会承認分まで）

・・・正会員・・・

宮阪 美穂(八千代リハビリテーション病院)

松井 理恵(山之内病院)

阿部 寛子(千葉中央メディカルセンター)

圓谷 奈津子(介護老人保健施設東京おりーぶ苑)

室井 美紀(千葉中央メディカルセンター)

佐々木 絢子(船橋市立リハビリテーション病院)

高橋 育美(鎌ヶ谷総合病院)

大壺 歩実(小張総合病院)

大田 佳枝(船橋市立リハビリテーション病院)

本間 菜採(総泉病院)

深谷 実紀(のぞみサポートセンター市原)

治田 寛之(東邦大学医療センター佐倉病院)

仲野 真理(茂原中央病院)

鶴沢 照世(八千代リハビリテーション病院)

・・・会友・・・

小宮 正子(武蔵野陽和会病院)

◇ 理事会・委員会等報告 ◇

◆ 平成22年度 理事会

《第4回》

日時：2010年6月13日(日) 13時05分～15時12分 場所：黒砂公民館

出席者：吉田、木下、小嶋、斉藤、相楽、平澤、古川、宮下(以上理事8名)、岩本(監事)、五十嵐(書記)

1. **協議事項**：・理事会および局等の議事録承認について ・新入会員・変更者の承認について ・春季県士会協議会について ・脳卒中リハビリテーション協議会について ・第2、3回研修会について ・個人情報の管理について ・財務マニュアルについて ・他団体訪問先について ・第33回ニュースについて

2. **報告事項**：・回覧郵便物 ・県士会活動協力候補者名簿について ・文化功労賞の候補者について ・「高次脳機能障害と運動・ADLを学ぶ」のホームページ掲載依頼

《第5回》

日時：2010年7月4日(日) 13時00分～14時28分 場所：黒砂公民館

出席者：木下、斉藤、相楽、平澤、古川、宮下(以上理事6名)、竹中(監事)、稲坂(書記)

1. **協議事項**：・理事会他の議事録承認について ・新入会員・退会者について ・個人情報の管理について ・第2回研修会の会場変更について ・ニュースについて ・リハビリテーション公開講座の対応策について

2. **報告事項**：・回覧郵便物一覧 ・県士会設立10周年講演会について ・第39回医療功労賞候補者の推薦について

《第6回》

日時：2010年8月1日(日) 13時00分～14時38分 場所：黒砂公民館

出席者：吉田、木下、小嶋、斉藤、相楽、平澤、古川(以上理事7名)、荒木(書記)

1. **協議事項**：・理事会他の議事録承認について ・新入会員・退会者について ・個人情報の管理について ・事務所について ・退会者の意思の確認方法、扱いについて ・小児言語障害委員会の情報交換会について ・第3回研修会の講師、会場について ・研修会資料の回収、保管について ・入会申込書について ・10周年記念の記念品について ・ホームページ広告 ・組織検討 ・第39回医療功労賞候補者の推薦について

2. **報告事項**：・回覧郵便物 ・生涯学習プログラムの進行状況について ・千葉県脳卒中リハビリテーション協議会について

《第7回》

日時：2010年9月23日(日) 13時00分～15時45分 場所：黒砂公民館

出席者：吉田、宮下、斉藤、相楽、古川(以上理事5名)、岩本(以上幹事1名) 飯村(書記)

1. **協議事項**：・理事会他の議事録承認について ・事務所について ・県士会理事選挙について ・日本言語聴覚士協

会からの依頼について ・訪問リハ・地域リーダー育成研修会について ・10周年記念事業について ・リハ公開講座の相談役について ・平成22年度秋期都道府県協議会について ・生涯学習プログラム来年度日程について ・外部講師の講師料の確認について ・他職種合同での研修会開催について

2. 報告事項: ・回覧郵便物 ・第三回研修会会場について

《第8回》

日時: 2010年10月24日(日) 13時00分～15時45分 場所: 黒砂公民館

出席者: 吉田、木下、小嶋、斉藤、宮下、相楽、平澤、古川(以上理事8名)、荒木(書記)

1. 協議事項: ・理事会他の議事録承認について ・新入会員・退会者について ・調査協力拠点施設網構築について ・第2回研修会について ・10周年記念事業について ・県士会会費自動引き落としについて ・ニュース34号について ・リハ公開講座について ・県士会理事選挙について ・第3回研修会について ・平成23年度第1回研修会について

2. 報告事項: ・回覧郵便物

◆ 平成22年度 学術局

《第2回》

日時: 2010年5月16日(日) 10時00分～12時00分 場所: プラザ菜の花

出席者: 平澤、平澤、木下、中村、藤田、酒井、田中、神作、三井、深田(以上9名)

・学術局の仕事内容と役割分担 ・平成22年度年間研修会計画の確認 ・第2回研修会スケジュールの確認と役割分担 ・第3回研修会助言者・症例発表者の検討

《第3回》

日時: 2010年9月12日(日) 17時30分～18時30分 場所: ロイヤルホスト稲毛海岸店

出席者: 平澤、木下、神作、中村、藤田、三井、酒井、田中、深田、建石(以上10名)

・第2回研修会反 ・第3回研修会について ・平成23年度第1回研修会講師検討 ・次年度計画案作成への案など

◆ 平成22年度 聴覚障害委員会

《第2回》

日時: 2010年6月13日(日) 10時00分～12時00分 場所: プラザ菜の花

出席者: 佐藤、高橋、常田、黒谷、宮下(以上5名)

・研修会の内容についての検討

《第3回》

日時: 2010年7月25日(日) 10時00分～12時00分 場所: プラザ菜の花

出席者: 佐藤、高橋、常田、黒谷、宮下(以上5名)

・研修会について ・講演順の検討 ・司会の選定 ・講師依頼について

《第4回》

日時: 2010年8月29日(日) 10時00分～12時00分 場所: プラザ菜の花

出席者: 佐藤、高橋、常田、黒谷、荻洲、宮下(以上6名)

・内容および配布資料の検討 ・当日について

◆ 平成22年度 高次脳機能障害委員会

《第2回》

日時：2010年7月25日（日）13時00分～15時00分 場所：市川高次脳機能障害相談室

出席者：小嶋、定司、石橋、鈴木、竜崎、大内、佐藤（以上7名）

・第2回研修会の件 ・今年度後半の作業 ・来年度に向けて ・その他

《第3回》

日時：2010年10月17日（日）13時00分～15時30分 場所：市川高次脳機能障害相談室

出席者：小嶋、石橋、鈴木、竜崎、大内（以上5名）

・第2回研修会の件 ・認知ドリルリストのホームページへの掲載の件 ・平成22年度活動報告の件 ・今年度委員の異動の件 ・次年度委員候補の件（連絡） ・その他

◆ 平成22年度 介護保険委員会

《第2回》

日時：2010年8月10日（火）19時30分～20時45分 場所：マクドナルド西船橋北口店

出席者：安島、藤倉、勝又、平澤（以上4名）

・平成22年度第1回勉強会について ・役割分担

《第3回》

日時：2010年10月17日（日）16時45分～17時15分 場所：千葉大学医学部附属病院

出席者：安島、藤倉、勝又、平澤（以上4名）

・医療保険、介護保険に関する調査協力拠点施設網の構築について ・第2回勉強会の日付・日時について ・平成22年度第1回勉強会について

◆ 平成22年度 リハビリテーション公開講座作業部会

《第6回》

日時：2010年6月24日（木）19時00分～20時30分 場所：千葉コミュニティーセンターB1

出席者：高橋、小貫、塩月（以上PT士会委員3名）、坂田、蛭田（以上OT士会委員2名）、斎藤、神作、羽場（以上ST士会委員3名）

・ポスター送付等進行状況 ・講師打ち合わせ日程について ・県民だより等広報について ・各士会から分担金の入金について

《第7回》

日時：2010年7月22日（木）19時00分～21時00分 場所：千葉コミュニティーセンターB1

出席者：高橋、小貫、塩月（以上PT士会委員3名）、坂田、金子、蛭田（以上OT士会委員3名）、斎藤、神作、羽場（以上ST士会委員3名）、小川、井上、安達、田中（以上講師および司会4名）

・講師打ち合わせ ・ポスター・ちらし進捗状況 ・県民だより等広報について ・各士会から分担金の入金について

《第8回》

日時：2010年6月24日（木）19時00分～20時30分 場所：千葉コミュニティーセンターB1

出席者：高橋、小貫、塩月（以上PT士会委員3名）、坂田（以上OT士会委員1名）、神作、羽場（以上ST士会委員2名）

・ポスター・ちらし 配布計画 ・県民・市民だより等広報について

《第9回》

日時：2010年9月2日（木）19時00分～21時30分 場所：千葉コミュニティーセンターB1

出席者：高橋、小貫、塩月（以上PT士会委員3名）、坂田、蛭田、金子（以上OT士会委員3名）、斎藤、神作（以上ST士会委員2名）

・3士会役員会について ・ポスター・ちらし進捗状況 ・県民だより等広報について ・当日スケジュールの確認
《第10回》

日時：2010年9月30日（木）19時00分～21時30分 場所：千葉コミュニティーセンターB1

出席者：高橋、小貫、塩月（以上PT士会委員3名）、坂田、蛭田、金子（以上OT士会委員3名）、斎藤、神作、羽場（以上ST士会委員3名）

・当日役割・運営・スケジュール確認について ・当日配布資料について、 ・アンケートについて ・会計報告 ・県民だより等広報について

《第11回》

日時：2010年10月19日（木）19時00分～21時30分 場所：千葉コミュニティーセンターB1

出席者：高橋、小貫、塩月（以上PT士会委員3名）、坂田、蛭田、金子（以上OT士会委員3名）、斎藤、神作、羽場（以上ST士会委員3名）

・当日役割・運営・スケジュール最終確認 ・予算・経費確認

《第12回》

日時：2010年11月11日（木）19時00分～21時30分 場所：千葉コミュニティーセンターB1

出席者：高橋、小貫、塩月（以上PT士会委員3名）、坂田、金子（以上OT士会委員2名）、斎藤、神作、羽場（以上ST士会委員3名）

・決算書確認 ・アンケート結果について ・内容開示について ・第5回に向けて ・その他 ・全体の反省

◆ 平成22年度 生涯学習プログラム基礎講座・専門講座作業部会

《第2回》

日時：2010年9月5日（日）13時30分～15時30分 場所：千葉市障害者福祉センター

出席者：塘、岡松、西脇、矢部、宇治、太良木、渡辺、齊藤（以上8名）

・申し込み状況 ・専門講座について ・会計について ・当日までの作業確認 ・当日の日程 ・当日の持参品 ・当日の役割 ・当日会場について ・参加証明書、領収証 ・来年度生涯学習プログラム基礎講座・専門講座 日程予定

《第3回》

日時：2010年11月21日（日）16時50分～17時30分 場所：千葉市民会館

出席者：塘、岡松、西脇、矢部、宇治、太良木、渡辺、吉田、齊藤、田代、橋本（以上11名）

・受講状況について ・各講座の様子について ・12月5日の日程について ・当日の持参品 ・当日の役割 ・当日会場について ・来年度生涯学習プログラム基礎講座・専門講座について

◆ 平成22年度 組織検討委員会

《第1回》

日時：2010年5月30日（日）9時30分～10時30分 場所：ロイヤルホスト津田沼店

出席者：平山、番、吉田（以上3名）

・千葉県言語聴覚士会の法人化について ・組織検討委員会委員補充について

《第2回》

日時：2010年10月31日（日）9時30分～10時30分 場所：ロイヤルホスト津田沼店

出席者：平山、吉田（以上2名）

- ・千葉県言語聴覚士会の法人化について
- ・組織検討委員会委員補充について

◆ 平成22年度 小児言語障害委員会

《第1回》

日時：2010年7月3日（土）10時00分～12時00分 場所：ロイヤルホスト津田沼店

出席者：那須、宇井、金子、木下（以上4名）

- ・今年度の活動計画
- ・情報交換会について
- ・今後の予定

《第2回》

日時：2010年9月26日（日）10時00分～11時20分 場所：八千代市ことば発達の相談室

出席者：那須、宇井、金子、木下、常光（以上5名）

- ・情報交換会について
- ・今後の予定

《第3回》

日時：2010年10月17日（土）17時00分～18時00分 場所：八千代市ことば発達の相談室

出席者：那須、宇井、金子、木下（以上4名）

- ・情報交換会の反省
- ・次年度委員について
- ・ニュース34号原稿について
- ・今後の予定

◆ 平成22年度 設立10周年記念事業作業部会

《第2回》

日時：2010年9月5日（日）13時15分～16時10分 場所：船橋市立医療センター

出席者：新井、宇野、上野、畠山、牧、村西、山本、古川（以上8名）

- ・後援及び来賓者について
- ・当日に行われるオープニング演奏及びコンサートについて
- ・情報保障における要約筆記及びポイント筆記について
- ・記念品について
- ・実態調査報告について
- ・記念誌の骨子について
- ・当日のタイムスケジュールと役割分担について

（紙面の都合上、報告事項と協議事項はまとめて記載しています。）



☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆ ★ ☆

編集部員のつぶやき

国内外のニュースでは、尖閣諸島沖の衝突事故に発した日中間の外交問題にはじまり、果ては、先日勃発した韓国と北朝鮮の領土問題など物騒な話題が増えております。こんなときこそ、政治家の指導力が問われるものですが、その肝心な政治家と言え、ささいな言葉尻を捉え、相手の非難に明け暮れ、一向に政策が前に進みません。更に、我々国民に至っても、あんなに期待して替えたはずの内閣であるにも関わらず、わずか半年たらずで支持率の急落状況です。今の日本、「あの政治家はだめ」「この政党はだめ」「あの若者はだめ」「あのやり方はだめ」と、「だめ、だめ、非難風潮」が高まっているように思いませんか！？「あれはだめ」「これはだめ」「どうせ言ってもわからない」と言うのは簡単です。でも、そういい続けた結果が「今」であるなら、「方策のない非難をするだけでは何も変わらない」と言う事を、逆に学ばなくてはならないのでしょうか。どうでしょう？明日から非難することをやめて、まず自分は何が出来るのか？何をしたら良いのか？を考えて、行動に移してみませんか？

リオネット補聴器

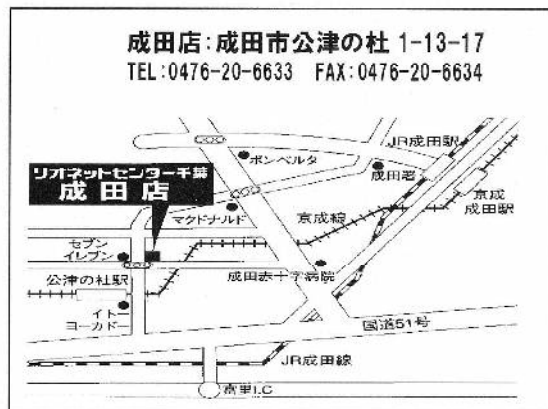
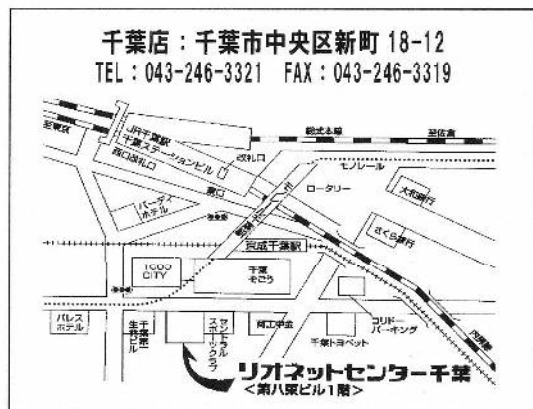
補聴器のご相談は安心できる

認定補聴器専門店で!!

認定補聴器専門店は「認定補聴器技能者」が在籍し、補聴器をお客様の耳に合わせるための設備機器が整い「補聴器の適正供給」の運用がされ、「財団法人テクノエイド協会」が認定したお店です。つまり経験豊かで専門的な知識と技能を持ったスタッフが、様々な機器を使い、一人ひとりのお客様の聞こえの状態に合った最適な補聴器をご提供します。

認定補聴器専門店

リオネットセンター 千葉



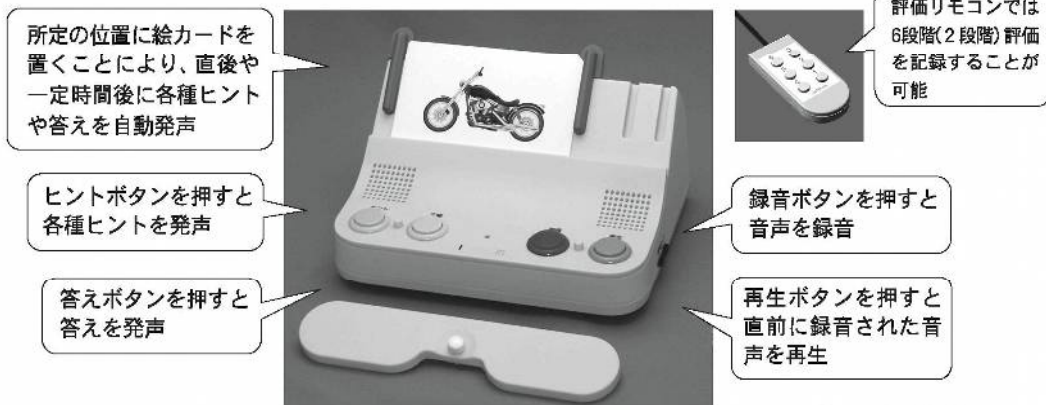
失語症言語訓練用 絵カード訓練機

ActVoice®

アクトボイス

2011年5月発売予定

カードをセットすると、裏面のバーコードを読み取り、各種ヒントや正答音声再生されます。失語症者の発声を簡単な操作で録音・再生が可能です。日時や操作履歴・録音などの記録をSDカードに保存でき、パソコンでのデータ処理が可能です。本機を使用した長期的な訓練経過などについて、評価・研究が可能となります。簡単な操作で、絵カードを自作できます。「絵カード2001」の一部も使用可能です。



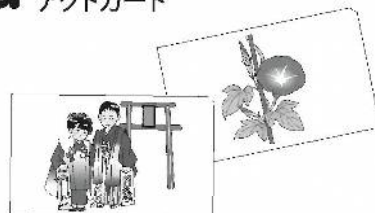
※製品仕様は開発段階のもので予告なく変更される場合があります。

失語症言語訓練用 絵カード

ActCard®

アクトカード

アクトカードはこれまで弊社発売の「絵カード2001」に替わる新製品で、イラスト面はカラーとなり、2500~3000枚で構成されています(予定)。高齢者の日常会話でよく使用される語彙の訓練をすることもできます。①親密度順 ②カテゴリ順 ③五十音順での並べ替えが可能です。2011年より300~500種類単位で、順次発売予定です。



※製品仕様は開発段階のもので予告なく変更される場合があります。

2011年2月発売予定(第1巻)

ActVoice モニター募集

お問い合わせメールはこちら info@escor.co.jp

失語症を担当する言語聴覚士20~30名を募集します。モニター実施時期は平成23年2月頃になります。協力者にはActVoiceを無償提供します。メールや電話にてお問い合わせ下さい。詳細をご案内します。



続・自閉症の僕が跳びはねる理由

待望の続編!!

会話のできない高校生がたどる心の軌跡
著:東田直樹 A5判 150頁 1,600円+税

自らの自閉症の内面をつづり大反響を呼んだ前作から3年。高校生の「今」コミュニケーション・日常生活・勉強・仕事など、60以上の質問に答えます。千葉県君津市在住。

ISBN978-4-900851-59-7

アメリカのドキュメンタリー映画に東田直樹出演!
『Wretches and Jabberers』
("哀れな奴ら"と"おしゃべり野郎")
10月よりアメリカ国内で上映ツアーを開始!!

映画公式HP(英語)
<http://www.wretchesandjabberers.org/index.php>
日本公開未定 決まり次第弊社ホームページでお知らせします。

●その他の製品情報につきましてはホームページへ。



株式会社 エスコアール

〒292-0825 千葉県木更津市畑沢2-36-3 TEL 0438-30-3090 FAX 0438-30-3091
エスコアールホームページ <http://escor.co.jp>

マウスピュア® シリーズ 口の機能を取り戻すために

唾液分泌
促進

清掃

保湿

口腔
マッサージ

マウスピュア®

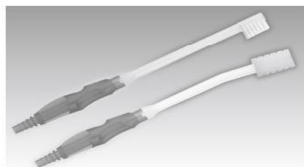
有効成分(グリチルリチン酸二カリウム)配合
保湿剤(ヒアルロン酸Na)(ヒドロキシセリン)配合

医薬部外品
薬用歯磨き
柑橘味

40g 希望小売価格 1,470円



マウスピュア® シリーズ口腔ケア製品ラインナップ



吸引+歯みがき / 吸引+口腔清掃
「吸引歯ブラシ」「吸引スポンジ」



口腔清掃
「口腔ケアスポンジ」



アイスマッサージ
「口腔ケア綿棒」



舌リハビリ
「口腔ケアガーゼ」



舌清掃
「フレッシュメイト K」

※ 製品改良のため、仕様の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください

川本産業株式会社

本社 / 大阪市中央区糸屋町2丁目4番1号

●お客様相談窓口 ☎06-6943-8956 (10:00~17:00 月~金 ただし祝祭日を除く)

●商品に関するお問い合わせ・試供品のご要望は

マーケティング本部 ☎06-6943-8941

<http://www.kawamoto-sangyo.co.jp>

発行所: 千葉県言語聴覚士会

発行人: 吉田浩滋

編集人: 編集部 古川大輔

事務局: 〒263-0023 千葉市稲毛区緑町2-1-9 103号室

TEL/FAX 043-243-2524

E-mail chibakenshikai@zp.moo.jp

ホームページ: <http://chibakenshikai.moo.jp/> 会員専用パスワード: affordance

印刷: 社会福祉法人 大成会 成田市のぞみの園